

力あわせて

全国の放送伝道協力会を紹介します。

四国福音放送伝道協力会
略称:四放伝(よんぽうでん)

「世の光」四国放送ラジオ(月)~(金) 5:15am (土)6:00am
「世の光いきいきタイム」四国放送ラジオ(日) 6:45am

始まりは、 一人の牧師のビジョン

四国福音放送伝道協力会(四放伝^{よんぽうでん})は、1977年4月にスタートしました。徳島県の諸教会のサポートのもと、現在、5分番組「世の光」と15分番組の「世の光いきいきタイム」が四国放送から流され、徳島県全域と県外は和歌山県から広島県にいたるまで、毎日、福音放送が届けられています。

さて、この四放伝が発足するきっかけとなったのは、その4年前に遡る1973年に発足された近畿福音放送伝道協力会(近放伝^{きんぽうでん})です。当時、ラジオ関西から流れていた「世の光」は、海を挟んですぐ隣の徳島県にも届いていたようです。

しかし、徳島での放送を始めるにあたって中心となった岩井従男牧師は、当時はあまり関心がなかったと言います。近放伝が発足され、そのPRのためのパンフレットなどが教会にたくさん届くようになりましたが、それらをほとんど見ることはなかったそうです。

ある時、徳島を羽鳥明牧師が訪れ、放送伝道について熱心に勧めたのだそうです。そこで岩井牧師は、それでは、一度聴いてみようという気持ちになり、ラジオ関西にダイヤルを合わせたその途端、魅せられるように聴き惚れてしまったと言います。

「例えば、カルピスの素(原液)みたいな……短い時間にキュッと福音のエッセンスが詰め込まれていて、すばらしいメッセージだったので、それを録音し書き起こすようになり、それは、今に至るまで続いています。」と、岩井牧師は、その時のことを振り返ります。



四国福音放送伝道協力会の委員の方々

その後、月一回の近放伝の委員会に出席するようになりました。当時はまだ、四国と本州をつなぐ橋もありません。教会のある脇町から列車を使って徳島港まで行き、フェリーに乗って和歌山へ渡り、そこからさらに電車で委員会(大阪)に出席していたとのこと。それはそれは大変なことでした。しかし、そのような中で、「地元の四国放送でも『世の光』を聞くことができたらはつきり聞こえて、どんなにいいだろう」と夢を持ち、1977年の4月、徳島県下の教会の教職の方々に相談して、決議がなされ、四国放送から四放伝による「世の光」がスタートしたのです。

初めての集まりの時には、近放伝から委員の方が数名、徳島の牧師が数名集まり、一緒に理念について話し合われたそうです。また当時、毎月35~6万円もの費用がかかる中、それを支えてくださったのは、クリスチャンの企業だったといえます。そのことにより経済的な基盤も整い働きをスタートすることができたのです。

一人の牧師のビジョンは、徳島県の教会や多くのクリスチャンの方々へ広がっていき、やがて、放送伝道を通して、地域の宣教協力へと繋がっていったのです。

次回は、四放伝の特色についてお伝えしたいと思います。



徳島県では独自の「世の光」の録音が行われています。
その訳は……次回をお楽しみに!